

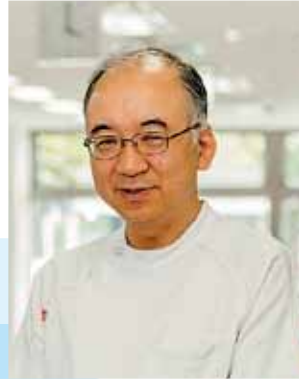
新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、多くの患者さんについて地域連携先の医療機関として当院をご利用いただき大変ありがとうございます。

当院は「地域医療支援病院」として、地域の先生たちとの連携をさらに強化し、「急性期の入院は当院で、回復期には地域の医療機関で」という地域完結型の医療を実現すべく今年も努力していく所存です。特に本年4月から、国は地域医療支援病院などに対して非紹介患者の初診加算制度を施行する見込みとなりました。当院では現在2,160円を頂いておりますが、これが倍以上に増額されることが見込まれます。救急ではない初診患者が大病院に直接来院できることが認められているのは先進国では日本程度であり、まずかかりつけ医を受診していただき入院や専門的治療が必要な場合に病院を紹介する事を後押しする制度と思われ、地域連携が益々重要になると考えます。また、今後の地域医療構想の中で、当院は高度急性期を担うことが期待されておりますが、当院での高度急性期の治療を終えた後もさらに回復期の治療を要する患者さんを受け持ていただける回復期病院や在宅医療施設との強固な連携を構築し、円滑な逆紹介につなげたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

市立札幌病院
副院長
向井 正也



さらに当院は「がん診療拠点病院」として本年3月末にPET-CTの導入を予定しております。市内で最先端の医療機器の導入です。従来の画像診断装置と同様に地域の先生たちにもご利用いただけます。放射線診断専門医のレポートとともに画像をお送りいたしますので是非ご利用ください。

最後に当院では「すずらんネット」を作り、参加いただいた各医療機関とインターネットにて各患者さんの情報を共有しております。必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ネットへのご参加を検討いただきますようお願いいたします。

今年も、当院は地域の医療機関を支援しつつ高度の医療を目指すことを目標としておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

病棟再編報告

平成27年11月22日、かねてより準備をすすめておりました一部病棟改修を伴う病床再編を行いました。

当院は高度急性期治療をにう地域医療支援病院として、患者さんや医療機関に信頼される地域完結型医療を提供する基幹病院をめざしております。今回の病床再編は、この一環として病床機能の分化による医療の効率化をはかり、より多くの患者さんに良質な医療を提供することを目的として行いました。

病床再編の柱となったのは、1)ハイケアユニットの開設 2)臨時入院病床の設置 3)短期入院病床の設置 4)緩和ケア病床の増床 でした。

病床再編にあたり、総病床数を798床から747床へとスリム化いたしました。これにより看護師の効果的配置が可能となり、ハイケアユニット、臨時入院病床、短期入院病床などの新しい病床機能を分化いたしました。

ハイケアユニットは手術室に直結しており、呼吸器装着を必要とするなどの重症患者さんを迅速に収容し、周術期治療を手厚く行うことを目的に開設いたしました。

臨時入院病床は、臨時入院を特化することにより各診療科の臨時入院患者さん、臨床研修センターからの3次救急以外の救急患者さん、夜間当直からの臨時入院患者さんの受け入れをスムーズにし、断らない医療の徹底をはかる目的で設置いたしました。

短期入院病床は、1～3泊の短期入院で行われる消化器内科の大腸ポリプ切除術、潰瘍性大腸炎に対するレミケード治療、リウマチ科の関節リウマチに対するレミケード

市立札幌病院
副院長
渡辺 祝安



およびアクテラム治療を行う患者さんを対象に設置いたしました。

緩和ケア病床は、当院も地域がん診療連携拠点病院として緩和ケアチームの設置が義務づけられており、平成16年10月より稼働してまいりました。昨今、当院においてがん治療を受けられ緩和ケアも希望される患者さんが増加しており、これに対応するため増床いたしました。

今回の病床再編を検証しつつ、今後も高度急性期治療をにう地域医療支援病院をめざし、診療体制のさらなる充実をはかりますのでよろしくお願いいたします。



新設のハイケアユニット



ハイケアユニットカンファレンスの様子

コラム

薬薬連携・合同勉強会の開催について

薬剤部 薬剤課長 川本 由加里



合同勉強会の様子



参加者との意見交換

多くの病院で医薬分業がすすみ、市立札幌病院においても、現在では約9割の患者さんが保険調剤薬局でお薬を受け取っています。病院薬剤師と保険調剤薬局薬剤師による「薬薬連携」の一環として、平成26年7月より近隣薬局と合同で勉強会を開始しました。

第1回は、内服抗癌剤による外来治療の増加を背景に、『外来患者の抗癌剤治療～薬剤師へ期待すること～』として当院消化器内科医師による講演会を開催しました。第2回以降は、平

成27年1月に検査値付処方箋の発行を開始したことから、「検査値勉強会」として毎月1回行ってきました。

処方箋への検査値表示は、腎機能・肝機能等の薬物適正使用のための情報を提供することを目的としています。勉強会では、この情報を有効に活用するために、検査値の利用法、注意すべき薬剤、疑義照会の例などを病院薬剤師が講師となって紹介してきました。

作用・副作用ともに強力な薬剤や、服用方法・使用方法

消化器内科・中村医師による講演



の複雑な薬剤が多く登場しています。有効かつ安全に薬剤を使用するためには、薬局窓口での服薬指導や患者状態の把握が重要と考えられます。薬剤師間の連携を通じて、患者さんの安全な薬物治療の一助となることを希望しています。